

現クラウド環境のサービス終了に伴う移行作業方針について(案)

1. 移行先クラウドサービスの再検討の必要性

2024年12月の運営委員会等において示した方針案では、別環境への移行に伴うシステム構成及びデータ移行における「移行作業の安全性」「工期」「コスト」を重点項目として、現行同基盤である「FJcloud-0 リージョン3」への移行を進めることを計画していた。

しかしながら、このリージョン3についても2028年6月をもってサービスの終了(予定)が判明したところであり、想定される不測の事態等を鑑み、改めて当面の移行先の是非について検討する必要性が生じたところ。

2. 適切な移行先の選定に当たっての観点について

以下3つの観点より移行先を再検討

サービスの 継続性

- ・クラウド環境が安定的に継続して利用できることを念頭に置き、サービスを選択する必要がある。
- ・この観点から、デジタル庁が採用する「ガバメントクラウド」から選択する方向が望ましい。

サービスの 差

- ・各クラウドサービスにより、料金体系と提供される内容が異なる。
- ・この観点から、AWSを選択する場合はMarkLogicサーバのバックアップが自動付帯となるため不要になるなど、コストメリットが生じるサービスを選択することが望ましい。

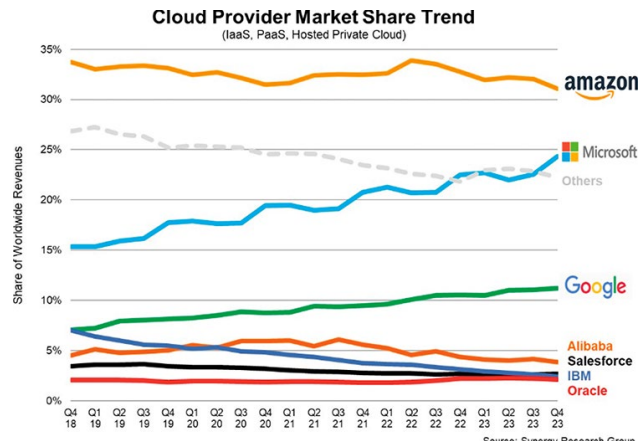
サービスを 扱える技術者数

- ・各クラウドサービスを取り扱うことのできるエンジニアが多いほうが機動的な対応が可能。
- ・この観点から、AWSを扱える技術者は他のサービスに比べ圧倒的に多く、有利。

ガバメントクラウドの対象クラウドサービス

- ・Amazon Web Services (AWS)
- ・Google Cloud Platform (GCP)
- ・Microsoft Azure
- ・Oracle Cloud Infrastructure (OCI)
- ・さくらのクラウド

市場シェアの推移(情報通信白書より引用)



3. 新たな移行作業方針案

2024年12月の運営委員会等において示した方針案に対するご意見を踏まえ、現クラウド環境の移行については以下のとおり対応することとしたい。

(1) 移行先及びスケジュール

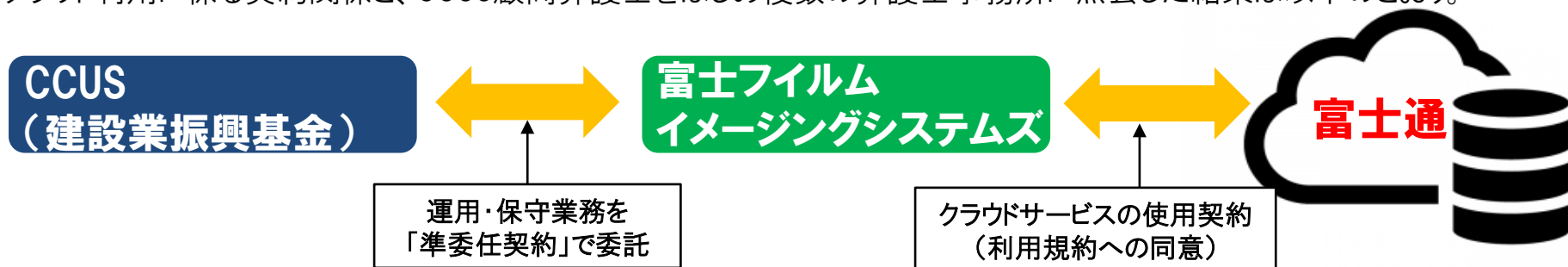
- ・前項に掲げた観点を踏まえた再検討の結果、AWSへ移行することが適切と思料。
- ・工期約10か月。実際の切替作業は2026年3月20日(金・祝)～22日(日)の3日間システムを停止し実施する(別紙移行作業スケジュール等 参照)。
- ・なお、CCUS次期システム入札参加者による提案においても、使用するクラウド環境はすべてAWSとなっている。

(2) 移行費用

- ・AWSへの移行費用は約4億円(消費税込み)。
- ・移行作業の内訳は、大まかに、「調査・移転方式設計」、「基本／詳細設計・環境構築・試験」、「サービス切替・事後作業」に分かれており、契約形態は、「調査・移転方式設計」の段階までは準委任契約、その後は請負契約となる。
- ・支払い時期と金額については、2025年度に4,000万円、2026年度に3.6億円となる見込み。
- ・2025年度分については、他の支出項目も含めコストの削減に努めることとし、本年度予算の範囲内に収める(第12回CCUS運営協議会総会にて議決した2025年度予算は、変更しない)。
- ・2026年度分については、コストの圧縮を図るための検討及び調整により、可能な限りシステム保守運営費用の総額の低減に努める。

4. 法的課題の検討

クラウド利用に係る契約関係と、CCUS顧問弁護士をはじめ複数の弁護士事務所に照会した結果は以下のとおり。



(1) クラウド提供元との関係

- ・利用規約は(一社)情報サービス産業協会の雛形を準用したものであり、一般的な内容。
- ・クラウド契約の一般的な慣習となるため、優越的地位の濫用を問うことは難しいのではないかな。
- ・誰でも公正取引委員会への申告は可能ではあるが、審査は個別に行われるため時間がかかり、早期に結論を得るのは難しいのではないかな。

(2) 業務委託先との関係

- ・振興基金とFFISの契約は準委任契約であり、クラウド契約の終期がいつになるかのリスクを常時言い続けることは、契約上の義務とは言えない。
- ・契約内容に、クラウド利用に関する助言が含まれているのであれば善管注意義務の是非を問える可能性はあるが、現契約にはその条項はない。
- ・事前に告知されていようがいまいが移転費用は変わらないのであれば、事前に告知されていなかったことで損害が発生していないことから、事前に告知されないだけの事由をもって善管注意義務違反を問うことは難しい。

(別紙)移行作業スケジュール等

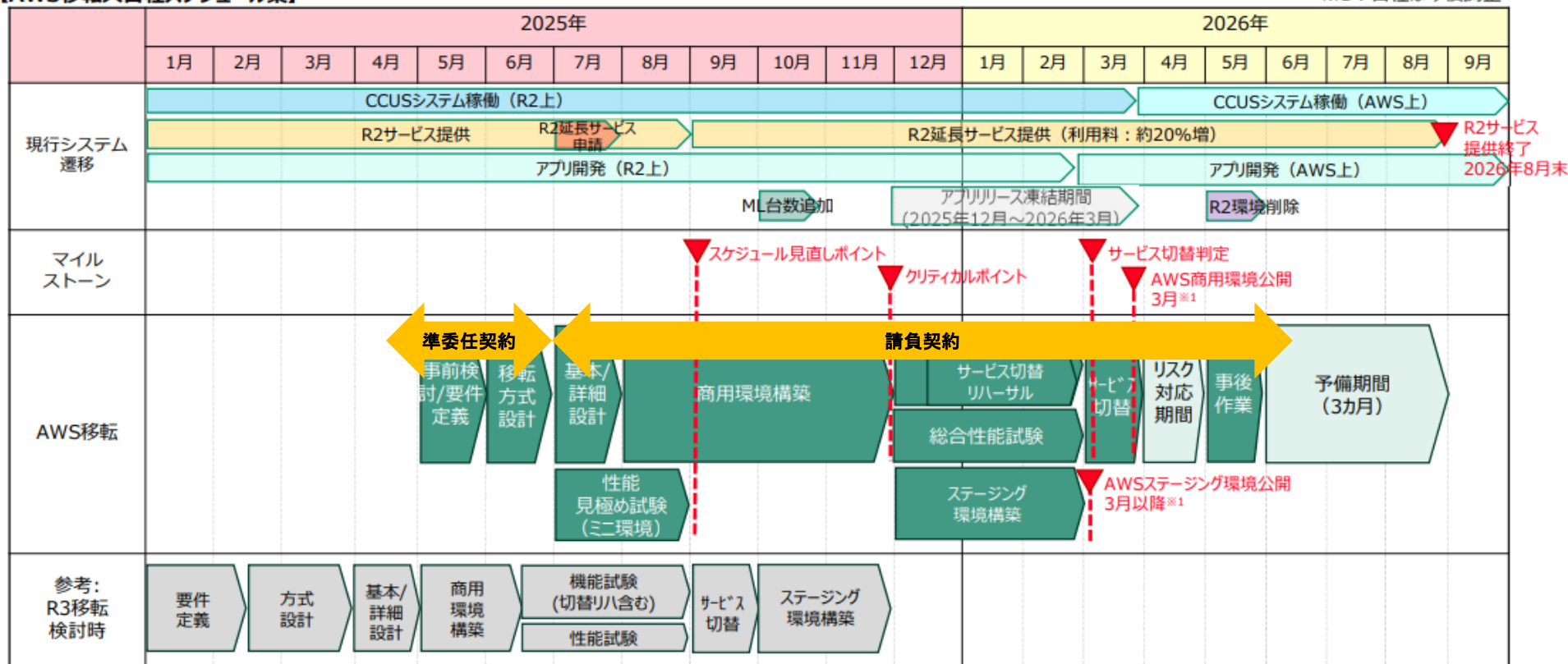
工 期 : 2025年5月～2026年3月(10カ月) ※別途、リスク対応期間及び事後作業を設定。

契約形態 : 移転方式設計までを準委任契約、以後の工程は請負契約とする。

費 用 : 4億円(うち、準委任契約により2025年度に対応する分は、約4,000万円)

【AWS移転大日程スケジュール案】

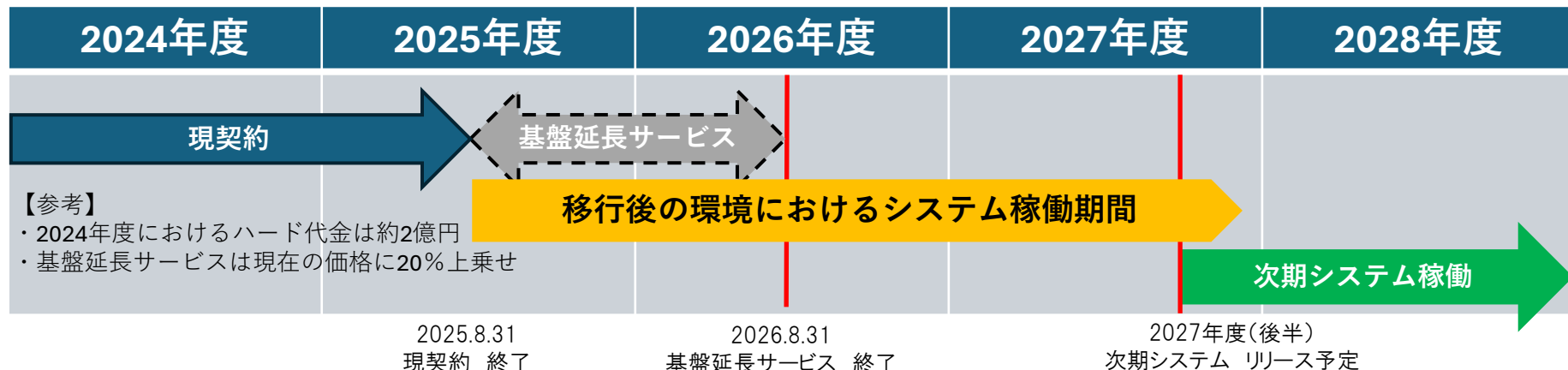
※1: 日程は今後調整



参考資料

1. 経緯等

- 2024年8月28日、CCUSが利用する現クラウド環境(FJcloud-O 東西リージョン1・2)のサービス提供終了が1年後の2025年8月末日となることが通知された。
- FJCloudの利用は、富士通社が定めた「FUJITSU Cloud Service利用規約」に同意の上で行うものとなっており、利用規約第5条において、「当社(富士通社)は、契約者に対して30日前の事前の書面通知を行うことにより、何ら責任を負うことなく、サービス利用契約を解約することができる」とされ、さらに、「サービス利用契約の終了後、当社は、本サービスの提供、ならびに契約者コンテンツのホスティングもしくは保存を継続して行う義務を負わないものとする」ことが明記されている。
- 一般的に、同様のサービス終了については提供終了日の約1年前に契約者あてに通知され、サービス終了後のサポート及び別クラウド環境への移行費用については提供されない。
- 富士通社より提示された資料においては、基盤延長サービス(加算料金有)を利用したとしても、CCUSが現在使用するFJCloud-O東西リージョン2 の利用期限はさらに1年後の2026年8月末までに限られている。また、現在検討を進めているCCUS次期システムの稼働開始は2027年度後半を予定していることから、CCUSを止めることなく稼働させ続けるには、別クラウド環境への移行作業が必要となる。



2. 移行先等について

- 移行先候補は、現行類似の「FJcloud-O リージョン3」、FJcloud側推奨の「FJcloud-V」、FFIS推奨の「AWS」の3つ。
- 移行作業は、新環境においても現在のデータを確実に保持しつつシステムが稼働することが重要であることから、「移行作業の安全性」・「工期」・「コスト」を重点項目として検討を進めた結果、要件を概ね満たす移行先は、「FJCloud-O リージョン3」のみであった。移行スケジュールとしては、現契約の終了となる2025年8月末の移行完了(本番環境)を目標とする。※基盤延長サービスの期間は、想定外なトラブル発生など有事が発生する場合の再計画期間として保持しておくものとする
- 移行作業に係るコストは現在積算中(概算3.5億円)、必要額を2025年度のシステム保守運用予算に計上予定。

	FJCloud-O リージョン3
移行作業の安全性	現在の「FJCloud-O リージョン2」と同じ基盤を提供するサービスであることから、イメージコピー(※1)が使用でき、データを確実に移行できる。
工期	移行に係る設計作業や環境構築について、他の2方式と比べ現在の「FJCloud-O リージョン2」からの流用もし易く短期間での対応が可能。
コスト	他の2方式に比べ作業工数が少なく、工期も短いことが想定されることから、最も低コストで移行作業を進めることが可能である。

(※1) イメージコピー: OS、ミドルウェア、アプリ、の一括コピー(複製)を指す。
尚、FJcloud-O リージョン3は主要OS(RHEL 7.9)の継続起用が可能であることが確認できた。

(参考)

FJCloud-V	AWS
・富士通からの推奨移行先(※2)(※3)ではあるが、現在と異なる基盤への移行となることから、安全性が確保されない。 ・移行作業に係る工数(工期)の増加が懸念される。 ・移行作業に係るコストは、FJCloud-Oよりも高額となる。	・第3回CCUSシステム分科会においてFFISより受けた追加提案としての移行先。 ・移行に係る情報が乏しく、各種の設定作業を最初から進める必要があるため、工数(工期)の増加が懸念される。 ・移行作業に係るコストは、FJCloud-Oよりも高額となる。

(※2) FJcloud-O側からは推奨移行先として「Oracle Alloy」も提示されたが、現時点では提供開始前(2025春)となり不明点が多く、移行先候補から除外した。

(※3) FJcloud-O側がFJcloud-Oリージョン3を推奨移行先に示さなかったのは、確認の結果2028年6月での終了予定が原因であることが判明。
但し、これを踏まえてもCCUS次期システムは開始(予定)を2027年度後半とするので環境維持が可能であると判断した。